私は今回第8回韓日未来フォーラムというものに参加させて頂き、実際の討論の場では従軍慰安婦問題のチームリーダーとしてグループメンバーの意見を聞かせてもらうことができました。

この文書では、自分がこのフォーラムに参加する前に抱いていた従軍慰安婦問題に対する５つの疑問をまとめながら、私たちの話し合った内容の代弁としたいと思います。

以下５つの疑問

1. 両国間の従軍慰安婦問題に対する教育
2. 慰安婦少女像に対する見解
3. 韓国内における言論の自由
4. 日韓合意について
5. 民族的性質（国民性）の影響

以上5点が、私が日本で過ごしている間に様々なメディアを通して疑問に思っていた事項です。この5つの疑問はこのフォーラムを通し、目から鱗の逆ベクトルの気付きを与えてもらいました。以下に簡単に示したいと思います。

1. 両国間の従軍慰安婦問題に対する教育

この疑問は日本で暮らしている人ならば、ほとんどの人が感じるであろう問題点であると思います。日本人のある意味異常と言えるであろう程の無関心さや韓国人の度を越したと感じ取れる抗議活動、等々、これらは青少年時に受ける教育によって大きく左右されていると考えられるためです。実際に日本では慰安婦問題は青少年に教える内容ではないとして、2006年以降中学校の教科書からこの慰安婦問題に対するページが排除され、現代の日本の義務教育では韓日の戦後問題に触れる機会が全くといっていいほどの皆無となってしまいました。したがってこの戦後問題について学を得るには高校や大学などで専攻した限られた人のみとなってしまっています。一方で韓国内では初等教育（小学校）時代から、過去に第三者機構によって撮影された残酷な資料や映像等用いて韓日間の戦後問題を大きく取り上げ、韓国国民の反日感情と呼ばれる蔑視の目を扇動するかのような教育がなされています。これらの現状についてチームで話し合った結果として、やはり日本における教育改革は必要であり、日本の加害者意識の希薄さを自覚するとともに戦時中犯した日本国民の罪をしっかりと国民全員が過去の出来事として理解する必要があるということが日本人メンバーの意見でした。また、韓国人メンバーは彼らが受けた教育が刺激的な内容が中心であり、この問題に怒りを感じる段階で止まり、歴史的な意義や今後の方向性などに焦点があったっていないことへの懸念を抱いてくれました。実際に親日派（日本では日本を肯定する考え方、韓国では帝国主義日本を肯定する考え方の意）の声はあまり彼らの耳に届いていない事も事実のようでした。（③で示す）

1. 慰安婦少女像に対する見解

日本国民が慰安婦問題で思い浮かぶのはこの慰安婦少女像だろうと思います。日本国内で様々な報道で取り上げられ、韓国が日本を威圧しているととらえる人が多いいためです。この慰安婦少女像は自分も含め多くの日本人が、韓国政府が民衆を扇動しいくつもの像を立てているという印象を持っていました。しかし、韓国人メンバーによると慰安婦像に関しては政府の関与がほとんどなく、市民団体によって建てられているとのことでした。このことから、韓国における政府と市民間での意見の差異が日本人メンバーに伝わるとともに、韓国の国民は少女像を日本政府に向けての責任追及だけではなく、多くの意味は戦後問題における象徴的記念碑として、この問題を忘れないように心に刻むために建てているとのことが日本人メンバーに伝わりました。

1. 韓国内における言論の自由

この疑問は自分が日本国内において様々な書物等を読んでいるときに、よく感じる疑問でした。日本国内で有名な1例を上げると、韓国内の大学で慰安婦問題について研究を行っていた朴教授が、研究内容が元従軍慰安婦の名誉棄損に当たるとして賠償金を支払うように求められた出来事がありました。このことからも虚心坦懐で韓日の戦後問題を研究せれる教授の試みが名誉棄損となってしまっては、今後の韓日の関係が改善されえるとは到底思えませんでした。この問題については、実際に韓国人メンバーは親日派の呉善花氏の名前は帝国日本を支持する人物として聞いたことはあるが、呉氏が書いた書物は実際に読んだことがないなど、触れられる情報が偏っているかもしれないという懸念も残りました。一方で日本国内も2013年以降報道の自由度ランキングが急落し、現在では韓国よりも低い位置に停滞しているという事実も発覚しました。また、日本における報道は韓日間の問題に対する知識が乏しいために信憑性が低く、慰安婦像の意義や韓国人の蔑視の目は過去の帝国日本や現代の政府の行動に対するもので現在の日本国民に対するものではないなど、十分に国民に伝えきれていないという問題も上がりました。

1. 日韓合意について

日本人メンバー全員が疑問に思っていた日韓合意について、韓国人メンバーが一貫して主張していたのは、韓国の国民は合意をしていないということでした。日本人メンバーによると政府間の正式な合意を持ってこの問題は解決されたとするのが日本国民を代表しての意見でした。しかし、韓国人メンバーによる韓国国民代表としての意見は全く異なり、合意は政府によって被害者の意思を考慮していない身勝手な行動であったと主張していました。韓国人メンバーは被害者との意思の疎通ができていなかった韓国側の責任を感じるとともに、被害者の要求を受け入れてもらいたいと主張していました。日韓合意については両国メンバー政治的問題としてこの慰安婦問題を扱うのではなく、男女差別のような人権的問題として今後扱ってほしいという意見でまとまりました。

1. 民族的性質（国民性）の影響

この疑問は個人的に抱いていた問題であり、人種差別としてもとらえられてしまいそうな質問だったために多くを語ることはできなかったのですが、上の①～④の結果を理解した上では自分なりの糸口が見つかりました。ここでの民族的性質とは、アメリカン人ならフレンドリー、日本人なら物静かで几帳面など、自分なりの各国に対するアイデンティティーであり、韓国人（朝鮮人）は血統主義がとても強いものだと考えていました。この血統主義を簡単に理解できる例が、「日本では忠と孝となれば私を捨てて国家社会への忠誠を優先する忠をとります。韓国では孝（家族を中心にする血縁関係）をとるのが本音中の本音。」＊と言う一文があります。（＊呉善花　「侮日論」より）　したがって戦時中日本は国家の進む道に従うしかない状況であったことや、一方で韓国人は血縁を大切にするがゆえに「国」を最終的には信じないという国民性をよく示しているように感じます。これを慰安婦問題に投射して考えると、まず過去の韓国人としての大きな血縁関係者が受けた残酷な仕打ちに対し、考を重んじて、度を超すかのように思える活動内容が行われていると、フォーラム参加前は納得していました。しかし、実際にこの国民性を韓国人メンバーに伺うと、近年この血統主義のようなものはなくなりつつあり、子供も親にそれほど干渉されない環境ができつつあることや、上で示したように、日本人は政府の活動に無関心なまでに干渉せず従い、韓国では政府と市民間の意見の差異が生じてしまう国民性も理解することができました。

以上5つの普段は質問しにくい疑問点ですら見ての通りとても深い所までチーム内で話し合いができました。（上の内容には自分の見解も含む）今回のチームのメンバーはこの問題に真剣な人たちばかりで、自分の質問した内容が想像を超えて帰ってくる経験はとても印象的でした。直接韓国の学生と意見交換できるこのような場は今後益々必要になってくると感じるとともに、今回参加できたことを心から感謝致しています。最後の発表では話し合ったすべての内容を伝えきることはできず、リーダーとしての不甲斐無さが残りますが、疑問を堂々とぶつけ合うチームだからこそ分かった両国間の考え方の違いを、チームメンバーが率先して上手くまとめてくれたことに、とても感謝しています。チームリーダーとして話し合った事すべてを、発表を通して伝えきれなかった悔しさはありますが、この文書を通してより深い所での誤解や問題点がチーム内で話合われたということなどが伝わればリーダーとして嬉しいです。

最後にこのフォーラムで一番心に残っている言葉があります。韓国人メンバーからの慰安婦像についての日本政府の対応に対する意見を聞いているときに、ある韓国人メンバーが「記憶する意思の欠如」（通訳を通してます）と発言していました。私たち日本人は戦時中に受けた原子爆弾など被害者としての意識が高い分、加害者として、また私たちが行った重い罪に対しての意識がとても低いです。「記憶する意思の欠如」この言葉は戦時中に日本が犯した罪をどうしても忘れたいと、どこかで思っていた自分の心に響き、また、慰安婦像をできるだけ撤廃して欲しいという自分の見解の甘さを痛感しました。この言葉は日常的にも何か悪いことをしてしまったときの、日本の政府やすべての国民にも当てはまるのではないかと思います。海外の人にこのように思われることへの悔しさと不甲斐無さを今改めて感じてます。

法政大学　理工学部２年　福島　瑠唯